



宰相の材

養成策や如何

道路改良會理事山田英太郎翁の經營に係る岩倉鐵道學校で校報が刊行せられて居る、筆者偶其第百十六號を手にした、就いて見ると「説苑」に「林羅山の一側面」と題する岸本講師の一文があるまた一家言である、又山田校長の筆による「百三十年前の花見」は佐藤一齋の小金井橋觀櫻記に略註を施したもので學生は勿論壯年者も老成者も一讀すれば裨益を受くること少なくないであらう、元田永孚氏の聖諭記は讀む度に讃嘆の念を禁ずる能はざるものがあるが同誌には此聖諭記の一節を登載してゐる

が夫れは明治十九年十月二十九日 聖上陛下 下帝國大學に臨幸あらせられ十一月五日 陛下の御下間に接し之を永田氏が謹記したもので其一節に「抑大學は日本教育高等の學校にして高等の人材を成就すべき所なり、然るに今の學科にして政治治要の道を得べからず、假令理科醫科等の卒業にて其人物を成したりとも入て相となる可き者に非ず、……大學今見る此の如くなれば、

此中より眞成の人物を育成するは決して得難きなり、汝見る所如何」と此聖意の那邊に存するか恐懼の至りである、今も昔も宰相の材の養成は具はり難きものか。

(夏木生)

注 意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

此繩を如何

交通道德の缺乏と無頓着な無謀と無神經な無作法とは遂に帝都の全域に涉つて危険地域に繩を張つて歩道から車道への歩みを制止してしまつた、實に遺憾千萬である。公通道德を守る者から見ると頗るふ耻辱である而かも筆者の如き強い近視眼鏡の持主は晝間はともかく夜分は甚だ危険を感じる否實際雨上りや濃霧の時など時々此繩につき當り思はず轉倒されることがある、折角交通禍を防止せんとして設備した繩が却つて交通禍を招來するとは設備者の意外とする所であらう、之れと云ふも民衆の心得がよくなく信號や交通巡查の指圖を無視し、所

嫌はず駆けぬけて行くものが少からぬのに基因したもので、我等市民は早く此繩から解放されて都市美の上からも今の儘にせられぬ様望まざることを得ない。(步行老生)

昂奮から平靜へ

わが國ではよく見受けるのは取締る役にある人が取締られる立場に居る人よりも先きに昂奮してしまひ其結果つまらぬゴタゴタを來すことだ、混雜する交叉點の交通巡查や高貴の方の御通路取締の場合又は火事場の如き場所での巡查や雜沓する停車場での係員などによく此の如き事例あるを見る。斯んな場合、歩の悪いのは取締られる側のもので絶へず苦情と不満とに惱まさられる、K市の或る警察署の刑事巡查が事もあらうに他署の管区内に立ち入り臨検の口實の下に上役の命令で、旅客を取調べんとした、すると其旅客と對談中である一客人は吾々の用談の場所に臨検などと稱し入室するとは不都合にあらずやと詰問した、

すると、兎に角署に同行を強要して途上にて檢束したるものであると報告し宿帳で住所も分明し立派な旅館の一室で交渉しながら浮浪者として檢束を加へ而かも毎日々々警察犯處罰令を適用して「一定の住所又は生業なくして諸方に徘徊する者」として檢束し之を取扱ふなど明かに事實にあらざる文書を作成して昂奮の後始末を爲さねばならぬ事となつた實例がある、旅人の不安は巡查の昂奮から招來せらるゝことで社會事相として見過すべからざることである、警察官など今一段平靜の修養を加へねばならぬと思ふ。(森貞生)

我邦土木界の信用

今から約八十年の昔米鱸の來襲に目醒めた我國民は營々孜々として歐米の文化に追及せんとして努力し醫學に法學に科學に日進月歩駈々として現狀に至つたので明治時代には歐米諸國から各方面の外人を雇入れて教を受けたものだが近時は漸く其域を脱

して独自の文化を進めることとなつた、夫れで土木關係の學術技能も最早他の後進國を指導する程度にまで立ち至つたことは喜ぶべきことである。シヤムとアフガニスタンからの土木技師招聘の事の如き實に其の表徴に外ならない、世に傳へらるゝ所では近時わが國ととみに親善關係を増してきたシヤム國から同國內務省土木局に技術官二名を招聘したい旨シヤム公使を經由して内務省に申し込んできたので人選中のところ東京金町道路改良事務所長東森藏氏はすでに就任を承諾し、更に大阪土木出張所勤務の内務技師稻垣茂樹氏にも交渉中である、なほアフガニスタン國からも内務省に技術官一名の招聘方を申し込んできたがこれは下關土木出張所勤務の内務技師池本泰兒氏に決定した内務省からシヤム、アフガニスタン兩國に土木技術者を派遣することは今回が嚆矢である。土木界に身を投じてゐる我等弱輩も大に意を強うする次第である。(アライ生)